

# EFインターナショナル

## 設立から丸5年、順調に事業拡大

### コンテナ売買・コンサル機能を提供

中古コンテナの売買や改造コンテナの販売を手掛けるEFインターナショナルは今年で設立から丸5年となった。同社もともとは、コンテナリース業界で豊富な経験を持つ中尾治美代表取締役が2010年3月に設立。コンテナのトレーディングを柱としつつ、さまざまな特殊コンテナの取り扱いを手がけ、徐々に業容を拡大してきた。機器の需要だけでなく、顧客との需要に応じた細かなサポートやコンサルティングを提供できるのも強み。最近ではリーファーコンテナやコンテナシールなど、コンテナに関連するさまざまな商品の代理店も引き受けている。「コンテナのトレーディング市場をさらに広げたい」と話す中尾氏。5年間で急成長したEFインターナショナルの現状を紹介する。

### 多岐にわたる事業

EFインターナショナルの事業内容は多岐にわたっているが、その内容を簡単に説明すれば「さまざまな海上コンテナに加え、コンテナシールやシャーシなど、コンテナに付随するさまざまな商品の調達や販売、リースなどを一手に引き受け、さらにかスタマーサービスや相談、コンサルティングなどのサポート業務を提供している」ということになる。



EFインターナショナルの社員一同(最前列が中尾氏)

10年3月の会社発足時は、韓国の中古コンテナ販売会社「極東(Kuandong Maritime Equipment Service)」と組んで事業をスタートした。「極東」は、もともと韓国国内の陸運事業からスタートし約20年の歴史があるが、その後は中古コンテナの売買やコンテナリース事業、さらにはコンテナ付随の事業を相次いで拡大してきた。EFインターナショナルでは、日本で顧客から受けた新造コンテナまたは中古コンテナの売買条件を「極東」につなぎ、それをリーフルな価格で顧客に納入する。新造コンテナの売買条件ももちろんあるものの、数量のうえではやはり中古コンテナの需要が大きい。

### 特殊コンテナに強み

一方、EFインターナショナルとしては通常のドライバンだけでなく、さまざまな特殊コンテナを扱っているのが強み。

会社発足から程なくして代理店を引き受けた「Box Future (Box Corporation)」は、「極東」と同じく韓国のメーカーで、スライドドアを備えたコンテナの特許・販売を手掛ける。主にスライドドア式コンテナや、オープントップコンテナのハンドリングを飛躍的に容易にした「ハイブリッド・オープントップ」が主力商品。スライドドア式コンテナは、従来のコンテナに比べて盗難だけでなく、作業時の効率性、安全性に優れる。「ハイブリッド・オープントップ」

### リース代理店も引き受け

13年1月からは、コンテナリース



MCCのタンクコンテナ



UESのドライコンテナ

## CARGO リポート

タイテンブルックスのコンテナシール

は、天井のポール脱着が飛躍的に容易になったのが特徴だ。一般的なオープントップコンテナは、手作業でポールを脱着する必要があり、保管時に紛失することもしばしばあるなど使いにくい面がある。この点、「ハイブリッド・オープントップ」

サモキングのリーファーユニット

中堅のUESインターナショナルの日本代理店業務も開始した。中尾氏自身がコンテナリース業界に長く身を置いており、EFインターナショナル設立に当たってリース事業の代理店業務を一つの目標として掲げていたため、この事は同社にとって大きな転機になった。

リーファー拡大目指す

このほか、EFインターナショナルは大手冷凍機メーカー、サモキングの日本代理店も引き受けている。サモキングはリーファーコンテナの草分け的な存在で、世界で初めて冷凍コンテナを製造した会社でもある。サモキングとしては、EFインターナショナルを通じて大手3社を始めとする日本の船会社による利用を伸ばしていきたいと考えた。サモキングの主力製品は、マイナスイオン40度の冷却性能を持つリーファーコンテナユニット「マグナム・プラス」やマイナスイオン60度の超低温輸送が可能な「スーパー・フリーザー」といった高性能のリーファーコンテナ機器が強みだ。「マグナム・プラス」は、一般的に使用される冷凍機「R134A」に比べ、より高い冷却効率を持つ「R404A」を採用。従来型の「マグナム」が最大マイナスイオン35度だったのに対し、マイナスイオン40度の冷却性能を発揮可能で、かつ電力消費量なども抑えられている。昨年には、日本と南太平洋を結ぶ航路で多目的コンテナ船によるサモキングを展開している協和海洋が、この「マグナム・プラス」を導入した。このほかにも船社を中心に導入が広がっているという。サモキングはまた、今年からCA (Controlled Atmosphere) コンテナにも力を入れていく方針。同社のCAコンテナとしては、既に01年に導入した「AFAM+」があるが、今年から新たにアクティブ型のCAコンテナ「マグナム・プラス・オプティマ」を導入。従来のパッシブ型に比べ、より早くCA環境を作り、青果物の品質を維持したまま輸送を可能にする商品として売り込んでいる。

このほかにも外船社を中心に導入が広がっているという。サモキングはまた、今年からCA (Controlled Atmosphere) コンテナにも力を入れていく方針。同社のCAコンテナとしては、既に01年に導入した「AFAM+」があるが、今年から新たにアクティブ型のCAコンテナ「マグナム・プラス・オプティマ」を導入。従来のパッシブ型に比べ、より早くCA環境を作り、青果物の品質を維持したまま輸送を可能にする商品として売り込んでいる。

# アセアン物流特集

## 自動車物流を追え!



**巻頭特集**  
**アセアン、自動車物流最前線**  
 AEC発足でどうなる自動車物流/タイ、インドネシアに生産集約も

■特別インタビュー トヨタ自動車/三菱自動車  
 ■現地レポート タイ編/インドネシア編

第2特集 拡大するタイのコールドチェーン | 第3特集 物流政策とアセアン

臨時増刊号 June 2014 6月30日発行

# 日刊CARGO

アセアン物流特集  
 Daily CARGO Transport & Logistics News

本体2,778円+税